

講演「平成 21 年度台風 9 号災害報告」 兵庫県佐用町長 庵途(あんぞこ) 典章さん

庵途町長 失礼します。ご紹介をいただきました佐用町の町長を務めております庵途でございます。今日は皆さまご苦勞様です。昨年の 8 月、もう 1 年 4 ヶ月余りになるのですが、今矢守先生がお話された「まさか」のことが佐用町に起こりました。本当に尊い人命をたくさんなくし、大災害になってしまいました。佐用町としても過去経験したことのない水害、災害で、今その復興に向けて全力を挙げて取り組んでおりますが、災害に当たりましては皆さまからも本当に物心両面たくさんのご援助をいただきましてありがとうございました。大きな災害が発生しますと、なかなか小さな町だけの力、また被災をされた方だけの力では立ち上がれない中で、多くの皆様方、二万人近いボランティアの皆さんに助けいただき、国や県の大きな財政的な支援や技術的な支援、いろいろな形でたくさんの方から支援をいただいて、そういった中で被災をされた方も一生懸命生活を取り戻すために頑張っております。ようやく町も平静、平穩に普段の生活が戻ってきておりますし、被災された方の生活も落ち着いて、当時のことを思いおこしますと、格的な復興はこれからですが、よくここまで復旧できたなという思いをいたしております。

そういう中で、今日滋賀県の流域治水シンポジウムで経験を話してほしいという知事からのご要請をいただきましたので、実際に受けた経験を皆さまに少しでもお伝えして、これからの災害に当たって、被害を少しでも軽減し、また尊い人命を失うことのないよう、それぞれの立場でみんなが努力をしていく、一つの教訓にさせていただければと、力になればという事でお話をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

滋賀県は、知事のお話しの中で全国でも一番災害の少ない県だという事をお聞きして、本当に幸せな県だなと思ひます。ただ、それはたまたま幸運であったと考えなければならぬと知事もお話しされていましたが、今自然災害は過去の経験では予想することが出来ない状態です。佐用町においても、瀬戸内海の穏やかな気候の地域であり、これまで大きな災害が発生するようなところではないと、いわゆる災害の少ない町だと思っております。しかし、兵庫県が阪神淡路大震災、もう 16 年前になりますけれど、思いがけない地震災害で、本当に「まさか」の地震で 6,000 名からの方が被災される、衝撃的な災害となりました。その後、地震に対する防災対策が皆さんの大きな関心となっております。兵庫県でも地震対策、私たちの町でも山崎断層という大きな断層を抱えておりますので、地震を通して、災害に対する地域防災という取組、これは町民の方も非常に強い関心を持って、地域で防災組織をつくって訓練をしていました。しかし水害は地震と全く違う災害であり、そういうことを一生懸命やったことが結果的に悪い結果を招いたという部分もありますので、災害の状況をまず皆さんに見ていただいて、その中から私たちが実際に経験して感じたこと、どう対策していくのか、どう備えていくのかをしっかりと検証していくことが、被災をした私たちの責任の示し方ではないのかなと思っております。そういったことから、

先ほどお話のあったように、室崎先生を中心にした検証委員会で災害の検証をしていただいて、90 項目にわたる防災力の強化や対策などの提言をいただいております。このようなことを、是非災害を受ける前に、全国に発信していかなければならないということで、私も今日お話をさせていただきます。

それでは、災害の状況をテレビや新聞等の報道では見ていただいたと思いますが、映像にまとめておりますので、約 15 分ほどまずご覧いただきたいと思います。よろしくお願ひします。

【スライド 2】(被災時の映像を上映)

15 分ほどにまとめて見ていただきました。災害の状況は、思い起こせば私も皆さんと一緒にいましたが、このような生々しい状況で、地震の被害も規模によりますし、災害はどんな災害でも大変なんです。特に水害というのは水に浸かったもの全てがゴミになってしまいます。水も泥水ですから。私どもで 3 万トン以上のものをゴミとして、あらゆる生活の家財などを処理をいたしました。映像にもありましたように、流木が流れて橋に引っかかって、そこにダムを造るんですね。それによって、また水が横に走って、高いところの家でも被害を受け、被害を大きくしています。それと山が荒廃していますから、山へ入りますと土という土が無くて石がごろごろしているという状況です。ですから、降った雨が一気に下に流れ下ります。同じ水害でも、よくテレビで見た平成 16 年の豊岡の円山川の水害、あそこは平地ですから堤防が決壊しますと水が上がってきて、どっぷりと水に浸かるという状況です。琵琶湖周辺の町も天井川のような川があったりして、そういう状況になる可能性も非常に高いのではないかと思うんですが、私たちの町は中山間地、山の中です。ですから流れが急で、谷の中を川がくねくねと曲がって流れているという地形ですから、今回の水害でも川の水が 1m 以上堤防から超えましたから、平地の部分がほとんど川になってしまいました。見ていただいたように、道路が川のようになって家の中を水が突っ走っていくという被害が出ました。被災後は修理や泥を取り除く必要がありますが、なかなか水害では乾かないし、泥や臭いが取れませんから、後の復旧が非常に困難な被害になります。

あと、パワーポイントでこの時の状況を私の方からもう一度説明させていただきたいと思ひます。

【スライド 3】

佐用町は兵庫県が一番西、岡山県との境で、私どもも平成 17 年に合併をいたしまして、四町が一つになって、人口が今年の国勢調査では前回より 1,700 人ほど減りまして、19,300 人をきるような町になっております。全体で 300 平方キロほどの大きさの町です。

【スライド 4 , 5 , 6】

西はりま天文台のなゆたとか、そのような施設もあります。ひまわりや棚田とか、この棚田に代表されるような中国山地の典型的な山間部の町です。

【スライド 7】

8月9日に豪雨が襲うということで、雨の降り方を見ていただくとわかるのですが、だいたい夏、8月に、これまでの常識というか経験では一番気候の安定した暑い時に、こんな雨が降るという事はまず予測はしていません。それから、この日も朝から雨が降ったりやんだりはしていました。でも、見ていただくとわかりますが、19時までは通常の雨なんです。私もこの日は日曜日で当然休みでしたが、朝から地域の盆踊りとか施設の夏の行事に出かけるために役場に出たり入ったりしていたわけです。そうすると、ちょうど夕方、17時、18時頃に雨が小康状態になって、一時やみました。水位も下がり、これまでの経験で私たちはこの程度の雨だろうと考えておりました。また、平成21年台風第9号災害という名前が付けられているので、皆さん台風だと思われるのですが、これは気象庁が後から付けたんですね。この段階では、まだ台風だとは全く予想していませんでした。台風であれば進路であるとか、台風の中心位置の情報が出るんですが、この時は低気圧はあったんですが、湿舌（湿気の多い舌みたいなもの）がかかってきたということで、急に19時前ぐらいから雨が降っております。最高では（雨量）81mmとかいわれておりますが、これはアメダスがあるところでの観測値です。ゲリラ的な雨というものは範囲が非常に狭いところの雨ですから、佐用町も全域300平方キロの中で、旧町でいくと旧佐用町と旧上月町の2町で被害が非常にひどくて、旧南光町と旧三日月町ではそれほど被害が出ていない。ですから、町の中でも半分ぐらいが大きな被害が出ているという災害になっております。ですから（雨量）81mmとなっておりますが、もっと多いところでは私は100mmを超える雨が降っていたのではないかと考えています。山の中に入りますと、一抱え近くあるような石がごろごろと流れています。山の中であれだけの石が流れるというのは、ものすごい水が一気に流れたのだらうと予測しております。

【スライド8, 9】

また、夜の水害なんですね。行方不明の方がまだ見つかっておりませんが、行方不明の方を含めて20の方が亡くなっています。その20の方が被害にあわれた状況は、家で亡くなられた、自宅にいて亡くなられた方は1人で、その方はこれまで一人暮らしでヘルパーが介護に行っていて、介護がないと生活できない方が家の中で亡くなられたと。その他の方はみんな外へ出て亡くなられております。私たちが災害に対してこれまで何も対策をしてこなかったというのではなく、佐用町としても、また県としても地震対策ということでやってきました。水害についても、51災と言って、皆さんご記憶の方もあるかもしれませんが、昭和51年に千種川下流の赤穂で大きな被害が出た水害がありました。その時にも床上浸水などがあったんです。その後、平成16年に豊岡で大きな水害があった時も、豊岡の方が大きかったものですから報道されませんでした。旧佐用町と旧上月町合わせて100軒ぐらいが床上浸水する大水害が発生しています。それらの経験を、非常に私たちは重要視して対策に当たってきました。その時の水位や浸水した状況から内水面の排水のための排水ポンプをつくったり、その時の水害の水位に合わせて堤防を上げたり、一番弱かった部分を補強したりということをやってきました。しかし、今回は全くそれを遙かに

超えてしまった。だから、自然災害の場合、どれぐらいの規模になるかというのは到底分からないです。当時、平成 16 年の時にこれは 100 年に一度の水害だと、おそらく過去最大であり、今後もこれぐらいの災害が最大だろうと専門家の方も言われておりましたし、みんなそう思っていました。しかし、今回はそれから 1 m ぐらい高い水位となってしまった。それから、平成 16 年の時の水害も夜だったんです。今回と同じように。夜の水害というのは、避難について、昼間とは全く違います。当然地震と水害も全く違います。水害というのは刻々と状況が変わっていきます。地震というのは一気にドーンと来て、そこからどうするかなんです。特に夜の避難というのは、平成 16 年の時に私も避難勧告を出しましたが、震災などの経験から、避難所として指定しているのは小学校の体育館とか地域の体育館などの拠点拠点の施設なんです。そういうところへ避難してくださいということで避難してもらったのですが、その時にお年寄りの方、避難された方、そうたくさんはおられません、やっぱり避難された。その方達の意見では避難するのが非常に怖かったということでした。水路が途中にあったりということで、水に浸かりながら雨の中を避難していくのが怖かったということで、我々は、夜の避難、特に水害の時の夜の避難は危険だという認識を持ったんです。ただ、今から考えると、私も反省して残念なのは、その時に人的な被害はありませんでした。ですから、それに対してどうしたらいいのかということまで、避難所の考え方を見直すとか、地域で皆さんと一緒にどうすればいいかということまでの話し合いをする、そういうことをやっていなかった。これには、一つは合併という事もあって、そのすぐ後に合併をして事務的な面での仕事もものすごくたくさんあって、なかなかそこまで手が回らなかったという反省点もあります。この度の災害もちょうど 19 時頃から雨が降った。今までの経験から、夜の避難で家が流れるという事はまずあまりない。私たちの町の状況から一番怖いのは、川のほとりにも家がありますが、山の裾野に家が点在しているというのが実情で、裏山が杉や檜の人工林で非常に崩れやすい。平成 16 年の災害の時にも家がつぶれたりして、たまたまちょっと離れた場所にいたから助かったけれども、もしいつもいる居間にいたら死んでしまったらだろうという家があったんです。ですから、土砂災害が一番危ないと心配していました。水害で避難をしてもらうのは出来るだけ避けなければいけないという思いを持っていたんです。しかし、あれだけの雨が急に 20 時頃からどんどん降って、周辺地域から山から土砂が崩れて家に入ってきた、水が入ってきたというような電話がどんどん入ってきましたが、範囲が広いのでどこがどうなっているのかなかなか状況がつかめないのですね。先ほども言いましたように、消防団ですとか、地域防災としては割合田舎でしっかりしています。その方達にみなさん出動いただいたのですが、出て行っても行くだけで何も出来ないような状態でした。あっちもこっちも動けないという状況になったので、県に連絡をして、今どのような状況になっているのかを情報交換して、これは危険が非常に高いということで最終的に全町に対して避難勧告をしたというような経過なんです。ですから、避難勧告等の時期が本来はいつだったとか遅れたとか、後から検証すれば全体のことが分かりますから、当時こうしておけば、この時期だったと

ということが分かりますが、その当時、時間が動いている中ではっきりと、正確な、適切な判断をするのは非常に難しいのが自然災害だということです。

もう与えられておりました時間が少なくなって、後の予定もありますので。

【スライド16～20】

それで、最後にこうして検証をしっかりとするという、これによってここから学ぶこと、これからの対策をどうしたらいいのかという問題について、町としてもこれからの被害を軽減するために必要だということで、良かったこと悪かったこと、これはもう反省点ですから全て出して、その中から学ぶこと、改善すること、そういった取組をして、こういうことを全国にも発信をしたり、こうして皆さんにもお伝えしたいということでございます。

最終的には、先ほどのお話にも出ておりましたが、地域の中で危険度はいろいろと違います。山からの土砂が危ないところ、川に近いところ、途中避難するところや避難しない方がいいところ、また避難所も一次避難、二次避難、命だけは、安全を守るために近いところに避難をする、そしてその時被害が出て避難生活をしなければいけない時にはしっかりとした避難生活ができる場所にそこから移るといようなことも、地域が合併をして非常に広いわけですから、同じような町といっても違うんです。だから地域の皆さん方が自分たちで地域のことを見直して、地域の防災力を高めないといけない。一人一人がそれに対して参加をして考えないといけない。そういうことで今小学校区ごとに地域づくり協議会という合併後のまちづくり協議会をつくっているんですが、防災というのもまちづくりとして考えて、まちづくりとしてこの度の災害を教訓に、地域防災というものを自分たちでやろうということで、今言われたような防災マップづくりもやっています。特に今高齢者だけの家庭が多いという中で、地域の絆をしっかりと作り直して、非常事態に備えないといけないということで取り組んでいる状況です。

以上、時間が超過してしまいましたが、これで終わらせていただきまして、パネルディスカッションで話す機会があれば少し補足させていただきます。どうも失礼しました。